

歴史散歩

◆伝承行事編◆

風鎮祭（風祭り）

（飯笹地区）

立春から数えて210日目となる9月1日（年によって前後する）、この日は1年の中で雑節にあたり、立秋や冬至などの24節気と同様に季節の移り変わりを表す日で、特に農家にとって特別な日とされています。その根拠としては諸説ありますが、この頃はちょうど台風が日本列島に襲来する時季で天気が不安定で荒れやすいからです。このことから、強風や大雨による収穫量の減収を避けるため、天気の安定を祈願する祭事として、風鎮祭は日本各地において古くから行われており、多古町の飯笹地区でも、地元の方が知る限り、明治の初期には既に行われ

ていたとのことでした。穀物の神様である倉稲魂命（ウカノミタマノミコト）を祀る飯笹地区の宇賀神社。集落を台地の方へとぼり進むと、数百年は経っていると思われる松杉林の中に木造と石造のふたつの鳥居が見えてきます。これめぐり、200メートルほど進むと、由緒約600年と言われている本殿拜殿にたどり着きます。ここで、風鎮祭は厳かに行われます。

祭事の前日、飯笹地区青年館の敷地には神様の目印となるように招代（おぎしろ又は、おぎしろ）と呼ばれる大きなのぼり旗が立てられ、当日の午前10時頃、区の役員と神社の役員たちが青年館に集まります。役員たちがそろくと、神主と一緒に宇賀神社へ向かいます。神社へ向かう人数は、必ず奇数と決まっ

ていて、その年によって異なりますが今年は5人。拜殿の中、お供え物の前で横一列に並ぶと、神主により天候の安定と豊作について祈願する祝詞（のりと）があげられます。続いて、玉ぐし奉奠（ほうてん）の儀が行われると、神社での祭事はひと通り終了します。



青年館に集まる役員



玉ぐし奉奠の儀



天候の安定と豊作を祈願する神主



※ここでは、各地域で行われている風習などを紹介して、もっと多古町のことを知ってもらおうというものです。「うちの地域ではこんなことをやっているよ」と教えていただける方は、ご連絡をお待ちしています。

■後世にも伝えたい

詳しい方に話を聞くと、「以前は4月に田植祭も行っていたし、風鎮祭も盛大に行っていた。地区のみんなが集まる一大行事だった。また、風鎮祭が行われる頃は農繁期であるため、地域全体で祭りを行うことが、疲れた体を休める意味も持ち合わせていたとも考えられるし、祭り

というのは、みんなの心のよりどころになっているのだらう」と。また、区長さんは「地域に伝わっている伝統行事は、少子化などにより時代と共に消えてしまふものも多いけれど、もっと多くの人たちにも知ってもらいたいし、若い世代にも参加してもらうことで地域が盛り上がるきっかけになればいい。これからも残していきたいですね」と話します。

多古中央病院から

風水害の怖さ

9月、栃木県や茨城県を中心に東北までの広い範囲で降った大雨が、鬼怒川の堤防を決壊させ、洪水の被害をもたらしました。多古町から70km程度の場所であり、大気の状態によつては多古町で大雨が降つていたとしても不思議ではありませんでした。また、今年は日本列島に複数の台風が同時に接近したこともありま

が知られています。雨が降りしきる中、避難場所をどうしようかと考えていると、考えもまとまらなくなり、結果として避難できずじまいとなりがちです。周りから見ても「あんなに雨が降つたのに、なぜ逃げなかったんだ」と疑問に思われてしまうほど思考と行動が硬直してしまします。

頼れる身内や、避難場所などを日頃から決めておいて災害時には「さあ、キャンプに行くよ」と言えるぐらいの気持ちで、周りの人に避難を促すとともに、自分が率先して避難できるように準備をしておくといいでしょう。



いきなり屋内に水が入ってきた。いつ逃げるかを考えるより、早めに逃げておけば良かった！

今回の災害では、避難指示が出てから十分に避難できる時間もなく、洪水の被害にあった地域が一部でありました。危険なほどの大雨は雨音などでも分かりやすいので、避難のタイミングを他人任せにせず、子どもや高齢者を守るつもりで、早めの判断をしましょう。

洪水や津波の被害は逃げる最中よりも、「逃げ遅れ」や「逃げなかったこと」により被害が大きくなること

【病院便り】
多古中央病院の受付時間は午前11時30分までとなっています。それ以降は、医師も検査や手術などに対応できないこともあるため、受診前に、必ず確認の電話をお願いいたします。

76-2211

追跡レポート! ———— この職業・この人たちの24時間



交通安全協会の一曰

紹介者：沖 久子さん(染井)

交通安全協会は、交通事故防止を目的にさまざまな活動を行っている団体です。各地域から選出される理事、代議員、指導員の総勢227名で構成され、町全体が7つの支部に分かれています。

皆さんに身近なものとしては、37名の指導員が携わっていることも園や各小学校での交通安全教室や自転車安全教室、あじさい祭りや祇園祭、さらにはマラソン大会や町民運動会等のイベントで道路の交通整理や行列と一緒に歩いて事故防止をサポートする活動だと思ひます。このほかにも年4回ある交通安全運動期間における啓発運動や各地域でのカーブミラーや歩道を清掃するなど皆さんの安全を守る活動をしています。

こういった活動は、皆さんからの交通安全協会費や車両会費、町からの補助金で賄われています。昨年度は、

1,263名の方々の会費と5,346台分の車両会費をご協力いただきました。年々、入会してくださる方が減っているのが実情ですが、ぜひ当会の活動を知っていただき、多くの皆さまにご協力をいただけたらと思います。なお、入会すると県内外約1,500カ所のレジャー施設や販売店などの協賛店で入場料や商品の割引サービスを受けられる特典があります。お出かけの際には会員証を持ってご利用ください。

多古町交通安全協会は、香取警察署多古幹部交番の一面に事務局があります。平日午前8時30分から午後5時15分まで、運転免許の更新に使う証紙の販売や安全協会の会員促進などを行っていますので、お気軽にお訪ねください。

一緒に多古町を事故のない町にしていきましょう。



取材協力：多古町交通安全協会